



古都地区の状況

旧上道古都村の一地区。山陽線長岡駅（東岡山駅）の東に位置して町村合併の結果、西大寺市として県下第八番目に田園都市として発足。

地区内、七ヶ部落（各部落に共撰場有り）

面積 一〇平方軒、戸数 四八〇戸、人口 二四〇〇人、
農家 三八〇戸、二〇〇〇人、内果樹農家 二七二戸、
水田 二三二町歩、平均 水田耕作反別六反四畝、
果樹 一〇〇町歩平均耕作四反弱、
米の販売 一〇〇〇〇俵、麦六 〇〇〇俵、
葡萄 四〇万貫、売上 八〇〇〇万円

本地区に果樹を導入して五〇年、葡萄の品種統一に成功して、九九%八までキャンベルスアーリー。

農薬クロンの進出に依りベリーAの栽培が可能になり、組合の推奨品種に取り入れて栽培の一割程度迄の新植を認めていた。

年産、五〇万貫、百町歩の成木、売上金壹億の目標達成も茲一、二年の見込みであった。

地区内、二八〇町歩の遊休山林を開拓に着目し、林道の新設を急いだ。



農業への資本導入

①大型農具の導入

- オート三輪・・・八〇台
 - 耕耘機・・・一六〇台
 - 発動機・・・三一〇台
 - 電動機・・・九七台
 - テラー・・・一―台
 - 脱穀機（だっこくき）・・・二五七台
 - 籾摺機（もみすりき）・・・五一台
 - 動力噴霧器・・・八五台
 - 計量器 百疋（キログラム）・・・二八五台
 - 十疋（キログラム）・・・二一〇台
 - 揚水器・・・二一八台
 - リアカー・・・各戸一、二台
 - 牛・・・一五〇頭
- ※大農具代は農協より立替払制

②果汁園への投資

山林一反歩の開拓から針金柵の新設迄、七～八万円見当概算、大農具、果樹園への投資三億円に近い計算となる。

③労力の導入

水田は機械化して、尚果樹園への労力不足は県外より導入。

農繁労務協議会長（中村照次に依り、四国方面より職安を通じて、常時四～五〇人（年間常住）農繁期二五〇人 田植時四〇〇人 年間仕払額は七～八〇〇万円。